第4学年 国語科 学習指導案

<本時の主張>

本時は、教材文「ごんきつね」の紹介リーフレット作りにおいて、六の最後の場面を「心にぐっと一番ひびいた場面」として選んだ理由について考えることを通して、登場人物の気持ちの変化について叙述を基に想像して読む授業である。

そこで,次の手立てを講じる。

- ① 単元を貫く言語活動「心にぐっと一番ひびく場面を伝える紹介リーフレット作り」に向けた学習課題として、教材文「ごんぎつね」の中で、六の最後の場面がどうして心にぐっと一番ひびく場面なのかを叙述を基に考えることを設定することにより、学習の目的を明確にもたせる。
- ② グループごとに兵十の気持ちが最も変わったところついて,線を引き理由を考えさせる。
- ③ 「くりを持ってきているのがごんだと分かり、やっと気持ちが通じたのに、じゅうでうたれたごんとうった兵十をどう思いますか。」という補助発問を入れることにより、登場人物同士の関係に着目させる。

この手立てにより、登場人物の気持ちの変化について叙述を基に想像して読むことができる。

1 単元名

感想を伝え合おう (学習教材:東京書籍4年国語下「ごんぎつね」)

2 単元の目標

- 中心となる人物とほかの人物との関わりをとらえ、登場人物の気持ちの変化を想像して読んだり、物語について感じたことや思ったことを発表し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いたりすることができる。 【読むこと(1)ウオ】
- 言葉には、自分の考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 知識・技能イ(ア)】

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
物語に興味をもち,紹介リ	紹介リーフレットを作る	適切な言葉や文により,自
ーフレット作りにおいて,心	ため,登場人物の性格や気持	分の考えたことや思ったこ
にぐっと一番ひびいた場面	ちの変化を読み取ったり,一	とを伝えたり共有したりす
を紹介しようとしていたり、	人一人の感じ方について違	ることができることに気付
友達の作品のよさを知ろう	いのあることに気付いたり	き,活用している。
としたりしている。	する。	

4 単元と指導の構想

(1) 単元と児童

①単元について

本単元で扱う指導事項は、読むことの能力を育てるための指導事項「場面の移り変わりに 注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読 むこと」である。

本単元を貫く言語活動として、「C 読むこと」の言語活動例として「エ紹介したい本を取り上げて説明すること」を具体化し、心にぐっと一番ひびいた場面を「紹介リーフレット」で表現することを位置付けた。「紹介リーフレット」には、物語の登場人物の性格、心にぐっと一番ひびいた場面とその理由を書く。こうした活動を通して、場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化について、叙述を基に想像して読むことができると考える。

また、本単元の中心教材は「ごんぎつね」である。「ごんぎつね」は、ひとりぼっちでいたずらばかりしている小ぎつねの「ごん」が中心人物である。ごんはいたずらを後悔し、つぐないを繰り返していくが、兵十にそのことが伝わる前に、撃たれてしまうという悲しい結末を迎える物語である。作品の中に、中心人物であるごんと兵十の心の通じ合いや各場面にある巧みな情景描写が多く見られ、場面と場面の関係に注意して、人物の気持ちの変化を叙述を基に想像しながら読むことに適した教材である。

②児童について

児童は第3学年までに、人物の気持ちを考えながら読み、感想をまとめることや、登場人物を中心に物語を紹介することを学習してきている。第4学年になり、「走れ」では、中心となる人物に着目して、気持ちの変化を考えながら読む学習をした。

「走れ」では、児童が主体的に中心となる人物の気持ちの変化を考えながら読み進めるた

めに、物語の見所を伝える CM 作りを行った。物語の見所を伝えるため、中心人物「のぶよ」の気持ちを考えながら読み進めた。ほとんどの児童は、意図的な発問があれば、場面の移り変わりや登場人物の言動等から登場人物の気持ちの変化を読み取ることができた。しかし、主体的に自分の力で人物の心情や情景を深く読み味わうことが十分できているとはいえない。

(2) 指導の構想

本単元では、児童が主体的に場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むことを主なねらいとしている。 そこで 以下の手立てを講じる。

① 紹介リーフレットの作成と活用

本単元では、お気に入りの物語の「紹介リーフレット」を作る。「紹介リーフレット」には、登場人物や物語の中で心にぐっと一番ひびいた場面を書く。児童は、お気に入りの物語についての心にぐっと一番ひびいた場面と理由を書くことを通して、登場人物の性格や気持ちの変化を読み取るため、主体的に物語を読み進めると考える。

② 登場人物の性格や気持ちの変化などについて、主体的に読もうとする態度を育む単元構成 第2次では、「ごんぎつね」の学習で主人公の行動や人物像等を読み取り、意見を交流 することを通して、学級全体で一つの「紹介リーフレット」を完成させていく。その学習 を生かして一人一人が自分の選んだ物語の人物像や行動を読み取り、オリジナルの「紹介 リーフレット」を書く。同様に、第3次では、並行読書をしている物語について、登場人 物の性格や登場人物について紹介したい場面と理由についても、「ごんぎつね」の学習で 学んだことを生かして書かせるようにする。第2次の学びを生かした第3次の学習活動を 組織することにより、「紹介リーフレット」を書き進める際の読みや表現に生かしたり、活動に見通しをもったりすることかができ、主体的に読もうとする態度を育むことができると考える。

5 単元の指導計画(全11時間・本時5時間目)

次	時	学習のねらい	学習の内容	評価規準
		○並行読書をしている	自分が読んできたお気	□お気に入りの物語
		本について,紹介リー	に入りの本で、「心に	の紹介リーフレッ
		フレットを作る学習	一番ぐっとひびいた	トを作る学習目標
1	1	目標をもつ。	場面を伝える」ための	と意欲をもとうと
1			紹介リーフレットを	している。
			作る学習課題を知る。	【関心・意欲・態度】
				(観察・ノート)

	2	○紹介リーフレット作りに向けて,教材文「ごんぎつね」の全体を読み,物語の設定や構成,登場人物の関係をとらえることができる。	・教材文「ごんぎつね」 を読み, 物語の設定や 構成, 登場人物などを 確認する。	□教材文「ごんぎつね」の物語の設定や 構成・登場人物など を読んでいる。 【読むこと】 (観察・ノート)
2	3	○教材文「ごんぎつね」 の登場人物の性格に ついて, 叙述を基に考 えることができる。	・教材文「ごんぎつね」 の登場人物の性格に ついて, 叙述を基に考 える。	□教材文「ごんぎつ ね」の登場人物の性 格について、叙述を 基に考えて読んで いる。【読むこと】 (ワークシート・ノート)
	4	○教材文「ごんぎつね」 の中で、心にぐっとひ びいた場面を見付け たり、理由を書いたり できる。	・教材文「ごんぎつね」の中で,自分の心にぐっと一番ひびいた場面を見付けたり理由を書いたりする。・心にぐっと一番ひびいた場面をグループで紹介し合う。	□教材文「ごんぎつ ね」の中で,自分の 心にぐっと一番ひ びいた場面を見付 け理由を書いてい る。【読むこと】 (ノート・ワークシート)
	5	○心にぐっと一番ひび いた場面について叙 述を基に読み取る活 動を通しながら、中心 人物「ごん」のつぐな いの理由を知る。	・心にぐっと一番ひびいた場面について、叙述を基に確認する。・中心人物「ごん」の行いが、つぐないであることを確認する。	□ごんの行いが,いた ずらでうなぎを逃 してしまったつぐ ないであることを 読んでいる。 【読むこと】 (観察・ノート)
	6	○中心人物「ごん」のつ ぐないの様子につい て, 叙述を基に読み取 ることができる。	ごんのつぐないの様子 について, 叙述を基に 確認する。	□ごんのつぐないの 様子を、叙述を基に して読んでいる。 【読むこと】 (観察・ノート)
	7 本 時	○心にぐっと一番ひび いた場面である六の 最後の場面について, 登場人物の気持ちの 変化を叙述を基にし て考えることができ る。	・4時間目に、多くの人が心にぐっと一番ひびいた場面について、登場人物の気持ちの変化を叙述を基にして理由を考える。	□ごんに対する兵十 の気持ちを叙述を 基にして考え,吹き 出しに書いている。 【読むこと】 (ノート)
	8	○登場人物の気持ちの変化を読み取りながら,教材文「ごんぎつね」の心にぐっと一番ひびく場面や理由を台紙に書くことができる。	・登場人物の気持ちの変化を読み取りながら、教材文「ごんぎつね」の心にぐっと一番ひびく場面を見付けて理由を書く。	□登場人物の気持ち の変化を読み取「ご ながら、教材文「ご んぎつね」の心には っと一番ひびて理 面を見付けて理由 を書いている。 【読むこと】 (ノート・ワークシート)

		○勿会!! コレットナ	初入11. コレニーナル	口点八の温)お帰ま
		○紹介リーフレットを	・紹介リーフレットを作	□自分の選んだ物語
		作るため,自分の選ん	るため,自分の選んだ	で,登場人物の気持
	9	だ物語の登場人物の	物語の登場人物の性	ちの変化について,
	9	性格について, 叙述を	格について, 叙述を基	叙述を基に読んで
		基に考えることがで	に考える。	いる。【読むこと】
		きる。		(ワークシート)
3		○紹介リーフレットを	・自分の選んだ物語の中	□自分の選んだ物語
		作るため,自分の選ん	で, 心にぐっと一番ひ	の中で、心にぐっと
		だ物語の中で心にぐ	びいた場面を見付け	ひびいた場面につ
	10	っと一番ひびいた場	たり理由を書いたり	いて、叙述を基に理
		面を見付けたり,理由	する。	由を考え読んでい
		を書いたりできる。		る。【読むこと】
				(ワークシート)
		○自分の選んだ物語に	・「紹介リーフレット」	□互いの感想を伝え
		の「紹介リーフレッ	の発表会を開き,互い	合いながら, 感じ方
		ト」を紹介したり、友	の感想を伝え合う。	に違いがあること
		達の「紹介リーフレッ		に気付いている。
4	11	ト」について感想を伝		【読むこと】
		えたりすることを通		(観察・ワークシート)
		して,感じ方に違いが		
		あることに気付くこ		
		とができる。		

6 本時の計画(7時間目/全11時間)

(1) 本時のねらい

心にぐっと一番ひびいた場面である六の最後の場面について,登場人物の気持ちの変化を 叙述を基にして考えることができる。

(2) 本時の構想

第二次の教材文「ごんきつね」の紹介リーフレット作りにおいて,前時までに,個々で選んだ「心にぐっと一番ひびいた場面」の様子について叙述を基に確かめながら,中心人物ごんの行動が兵十への償いであることをつかんだ。

本時は、六の最後の場面を「心にぐっと一番ひびいた場面」として選んだ理由について考えることを通して、登場人物の気持ちの変化について叙述を基に想像して読む授業である。 償いを知ってもらいたいごん、償いを知らずにじゅうでうつ兵十の気持ちのすれちがいに着目させることにより、登場人物の気持ちの変化を読み取らせていきたい。

そこで,以下の手立てを講じる。

【手立て1】

単元を貫く言語活動「心にぐっと一番ひびく場面を伝える紹介リーフレット作り」に向けた学習課題として、教材文「ごんぎつね」の中で、六の最後の場面がどうして心にぐっ

と一番ひびく場面なのかを叙述を基に考えることを設定することにより, 学習の目的を明確にもたせる。

単元を通してお気に入りの物語の「心にぐっと一番ひびいた場面」を伝える紹介リーフレット作りを言語活動として位置付け、学習活動を進めている。本時では、教材文「ごんぎつね」を活用して「心にぐっと一番ひびく場面を選ぶ」学習で、心にぐっと一番ひびいた場面として選んだ六の最後の場面について考えることを学習課題として設定して、単元を貫く言語活動に即した学習の目的を明確に持たせる。このことにより、児童は主体的に登場人物の気持ちの変化を叙述を基に想像して読むことができると考える。

【手立て2】

グループごとに兵十の気持ちが最も変わったところついて、線を引き理由を考える。

ごんに対する兵十の気持ちが最も変わったところに線を引かせ、理由を考えさせる。グループごとに考えさせることにより、様々な表現を基に、兵十の気持ちの変化と理由を考えさせていきたい。このことにより、登場人物の気持ちの変化を叙述を基に想像して読む力を育むことができると考える。

【手立て3】

「やっと気持ちが通じたのに、じゅうでうたれたごんとうった兵十をどう思いますか。」 という補助発問を入れることにより、登場人物同士の関係に着目させる。

ごんと兵十の個々の気持ちを読み取るだけでなく、登場人物同士の関わりに着目させ互い の気持ちを考えさせることにより、より深く登場人物の気持ちの変化を読み取ることができ ると考える。

(3) 本時の展開

あてを確しトを作ろう。 起させて、心にぐっとし	学習活動	教師の働き掛けと予想される児童の反応	□評価・○留意点
C2 兵十がじゅうでごんをうったところ。 T4 どうしてか理由を教えてください。	【導入】 ①本時のめ あてを確 認して,課 題をつか	心にぐっと一番ひびく場面を伝えるリーフレットを作ろう。 T1 みんなで見付けた、心にぐっと一番ひびく場面を確かめながら、ごんのつぐないについて読み取ってきました。 T2 ごんの兵十に対するつぐないの気持ちは、どうなりましたか。 C1 高まった。自分がしていることを分かってほしいと思った。 T3 多くの人が、心にぐっと一番ひびいた場面であるとシールを貼ったところは、どの場面でしたでしょうか。 C2 兵十がじゅうでごんをうったところ。	○前時での授業の様子を想起させて、心にぐっと一番ひびいた場面について

【展開】 <学習課題> ○教材文「ごんぎつね」の ②兵十の初 どうして六の最後の場面が、かわいそう(せつ 6の場面を黙読させるよ めの気持 ない) なのだろう。 うにする。 ちを叙述 T5 ごんがうちの中に入ってきたとき, 兵十はどん を基に読 なことを思いましたか み取る。 C4 また、いたずらをしに来たな。 (10分) C5 こらしめてやると思った。 T6 兵十の気持ちは、その後に変わりましたか。 C6 変わった。 T7 グループごとに兵士の気持ちが最も変わったと ○グループごとに, 兵十の 思うところに線を引いて、その理由を書きましょ 気持ちが最も変わったと ③兵十の気 【手立て2】 う。 思うところに線を引かせ, 持ちの変 C7 「土間にくりがかためておいてあるのが目につ その理由をワークシート 化につい きました。」 に書かせるようにする。 て,グルー C8 「兵十は, びっくりして, ごんに目を落としま プごとに した。」 叙述を基 C9 「「ごん、おまえだったのか。いつも、くりをく に読み取 れたのは。|| る。(20分) C10 「兵十は、火なわじゅうをばたりと、取り落と ○グループごとに発表し しました。」 て, 兵十の気持ちの変化を T8 グループごとに、選んだところとその理由を発 確かめる。 表してみよう。 C11 土間にくりが置いてあることに気付いて、ごん がくりや松たけを持ってきたのが分かったから。 ○気持ちや物事が通じ合わ C12 「びっくりして」と書いているように、ごんが ない状況のことを,「すれ くりや松たけをもってきて驚いたから。 ちがい」という言葉で表 C13 取り落としたと書いているぐらい, 心がからっ すことを伝える。 ぽになってしまっているから。 T9 くりを持ってきているのがごんだと分かり、や っと気持ちが通じたのに、じゅうでうたれたごん とうった兵十をどう思いますか。 【手立て3】 C14 (2人がすれちがって)かわいそう。かなしい。 C15 せつない。 【学習のまとめ】 やっとごんの気持ちが通じたのに, 兵十に撃た れてしまうすれちがいが切なく(悲しく),心にぐ っとひびいた。 T10 じゅうでうった後のごんに対する兵十の気持 □ごんに対する兵十の気持 【終末】 ④本時の学 ちを考えて、吹き出しに書きましょう。 ちを叙述を基にして考 C16 くりや松たけを持ってきてくれたのに、間違え 習を振り え,吹き出しに書くこと 返る (10 てじゅうでうってしまって, ごめんね。 ができる。(ワークシー 分)

(4) 本時の評価

評価方法:ワークシートの吹き出しの内容

評価規準: ごんに対する兵十の気持ちについて、叙述を基にして考え吹き出しに書いている。

【読むこと】

目指す子どもの姿

- ○ごんに対して、場面同士を関連付けながら叙述を基にして気持ちが書かれている。
 - 例) うなぎのいたずらのつぐないで、くりや松たけを持ってきてくれてありがとう。 ゆるしてあげるね。そして、かんちがいしてじゅうでうってしまい、ごめんなさ い。
- ○ごんに対して叙述を基にして気持ちで書かれている。
 - 例) いたずらをするとかんちがいしてしまい、じゅうでうってしまってごめんなさい。

7 参考資料

- ・水戸部修二「学習指導案パーフェクトガイド」, 明治図書, 2014
- ・水戸部修二「単元を貫く言語活動-授業づくり徹底解説&実践例 24」, 明治図書, 2013